

ねらい

子どもの発達や学びの様子、指導の在り方などを理解し、小学校入学当初のスタートカリキュラムを通して育む姿を校内で共有する。

ポイントと 幼児期とのつながり

幼保での遊びや生活との接続を考慮し、安心して主体的に自己を発揮できるよう環境の設定や教師の関わり、活動のもち方を工夫する。

〈キーワード【安心】【安定】【主体性】【自己発揮】〉

実践内容

登校してから



自分の力で朝の準備をしてから、ブロックや折り紙、ドールハウスなど思い思いに遊びます。



帯時間



〔ほっとタイム〕歌をうたったり読み聞かせをきいたりして、ゆったりと過ごします。



1校時



〔弾力的な時間割、合科的・関連的な指導〕帯時間から音楽科、さらに国語科へと流れていきます。



2校時



〔生活科・がっこうたんけん〕ひみつの地図を片手に、友達と思い思いに学校中を探検します。



取組を振り返って

- 入学後間もない時期は、学校生活への期待感や緊張感、不安感など一人一人様々な思いが錯綜していることを捉え、幼児期の経験や雰囲気を取り入れた安心感と楽しみな思いがもてるような環境構成、歌や絵本に親しむひと時の設定、子どもへの寄り添いや共感を大事にした教師の関わりを意識することで、安心して学校生活を楽しみ、思い思いに活動して自己発揮する姿が見られた。家庭で子どもが保護者に喜んで話をすることが保護者の安心感にも繋がり、安心感や期待感の輪が膨らんだと考える。
- 安心感をもとに、子どもが主体的に考え、取り組み、自己発揮できる工夫をさらに図りたい。